令和４年度　自己評価書

学校園名　附属小金井小学校

１　学校経営計画　別紙のとおり。

２　自己評価

領　域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	**◎新型コロナウイルス感染症への適切な対応** 衛生管理マニュアルに基づき、基本的な感染症対策を徹底し、各教科等の指導や学校行事等を実施する。	●学校全体で213名（昨年度79名）の陽性者が発生したが、家庭とも連携して感染症対策を徹底することにより、学校におけるクラスターの発生を防ぐことができた。 ●規模縮小等の工夫をすることで、授業参観や運動会、宿泊生活等の行事を実施することができた。 ●学級内に複数の陽性者が発生しても、オンライン授業を実施することにより、学びを継続することができた。 ●5･6年生の給食は、感染症対策のため各教室で実施しているが、食缶等を食堂から教室まで担任と児童が運ばなければならず、衛生面等が課題である。	B	●5･6年生の給食については、感染対策や衛生面だけではなく、校舎改修工事との関連も考慮して、食事場所を決定する。	●5･6年生の給食については、感染状況を踏まえて、学校医や産業医の助言をもとに食堂で食べることが可能かどうか判断する。
	◎いじめ防止等への取り組みの充実 互いに認め合える雰囲気づくりに努め、児童一人一人の居場所をつくるとともに、いじめ等が発生した場合は、教職員や附属学校SSW、子ども家庭支援センター等と連携し、組織的に対応する。	●保護者アンケートでは「児童は学校が好きで毎日楽しく登校している」が今年度も4点満点中3.59と評価が高かった。 ●いじめ対応は、校内のいじめ防止対策委員会のメンバーや附属学校SSW等との連携は図れているが、どうしても担任の負担が多くなっているので、サポート体制をより一層充実させる。		●初期対応におけるいじめ防止対策委員会の機動性・実効性を高めるために、必要最小限度の複数の委員で会議を開催して事案に対応する。	●初期対応においては、担任や学年任せにせず、管理職や養護教諭等を含めた必要最小限の委員で会議を開催し、事案にスピード感をもって対応する。

教育活動	**◎宿泊生活の充実** 基本的な感染症対策を徹底しながら、規模を縮小するなど宿泊生活の在り方を工夫して可能な限り実施し、日常では体験できないかかわり合いを通して「明るく思いやりのある子」と「強くたくましい子」の育成を図る。	●4年生以上の林間学校（一宇荘生活）はクラスごと、5年生以上の臨海学校（至楽荘生活）は男女別に実施することで、コロナ禍においても、可能な限り密集・密接を避けて宿泊生活を実施することができた。 ●保護者アンケートで昨年度最も評価の低かった「宿泊生活が充実して行われている」は2.56から3.16へと数値は上がったが、今年度も評価の低い状況が続いている。	B	●4･5年生の林間学校（一宇荘生活）において、キャンプ場での食事作り活動が実現できるよう方法を工夫する。	●石けんによる手洗いや手指消毒、マスクの着用、可能な限り器具等を共用しない等の感染対策を行いながら、食事作り活動を実施する。
研究活動	**◎研究成果の積極的発信** 研究成果を全国に発信するため、コロナ禍においても方法を工夫して研究発表会を開催し、最大限の参観者数を目指す。	●感染の拡大により、参加者を限定して対面とオンラインのハイブリッドで開催し、3年間の研究の成果を発信した。参加者は対面が190名、オンラインが約700名だったが、オンラインの参加者が予想より少なかった。研究テーマや宣伝方法を工夫する必要がある。 ●対面とオンラインのハイブリッド開催は、学校側の負担が大きく、オンライン配信の質の保障に課題が残った。	C	●研究テーマや宣伝方法を再考し、参加者を増やす。 ●開催方法は、対面かオンラインのどちらか一方にする。	●SNSの活用も視野に入れた宣伝方法を検討する。
学生の教育・支援活動	**◎学部及び大学院の授業等への協力** 学部及び大学院生への授業公開を、一人あたり年間１回以上実施する。	●感染の拡大により、対面での授業参観が実施できない期間があったため、学生に授業を公開できたのは26名中12名であった。 ●Web開催の方法も検討したが、学生からのリクエストは対面開催であったため、実現しなかった。	C	●感染が拡大しても、Web開催ではなく、人数を限定して分散開催にするなど、参観方法を工夫する。	●学生の人数を限定し、分散して授業参観を行う。
社会貢献活動	**◎地域教育界との更なる連携の強化** 小金井市の校長会、副校長会、生活指導主任会等に参加し、地域との連携を図ることで、幅広い視野をもって学校運営ならびに教育活動を展開する。	●小金井第二小学校をはじめ、市内７校の校内研究会等に本校教員７名が講師として参加したり、小金井市内の教員が本校の研究発表会に参加したりするなど、地域教育界とのネットワークを強化することができた。	A	●市の校長会で、校内研究会等へ講師・協力者を派遣することをアピールし、引き続き連携強化を図る。	●連携した学校の具体的なニーズの聞き取り調査を行う。

３　その他特記事項　　●特になし

４　自己評価委員会委員、開催日　　●委員：校長、副校長、主幹教諭　　●開催日：2023年2月21日